

JR東海労なごや

2011年6月25日 No 857
JR東海労名古屋地方本部
発行者：山田哲也
編集者：堀部 肇

中央リニア新幹線答申案に反対！ 中津川でビラ配布行動！

6月20日、「東濃リニアを考える会」は中津川市でビラ配布行動を展開しました。10名以上が集まり1時間に渡り【JR東海の財務体質】【電磁波の人体への影響】【経済効果】などが主張されたビラを配布しました。4月21日に「国交省交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会中央新幹線小委員会」が政府に提出した『最終答申案』に対して、解決されていない多くの疑問を訴える立場で行われました。

リニア中央新幹線は豊かな自然を破壊する！

「最終答申案」では南アルプスを貫通し、飯田市高森町付近に長野県の駅を建設し、恵那山の北側をトンネルでぬけ、JR美乃坂本駅付近に駅と車両基地を建設し、岐阜県から春日井方面にぬけ、地下に入り名古屋駅とクロスするという計画です。美乃坂本駅付近には「ハナノキ」「シデコブシ」「マメナシ」など東海丘陵要素植物群が形成されています。また、南アルプスの貫通など自然破壊は必至です。トンネルを掘った土の処理でも自然破壊が危惧されています。

地震への備えが疑問視される。政府機関の安全神話が崩壊！

東日本大震災でリニアの安全性も疑問視されています。半分以上がトンネル区間を走向するリニアで地震が起きたとき、誰がどの様に旅客を誘導するのか、長大トンネルで車両火災や事故が発生した場合の旅客の脱出はいかに行うのか。原発の3～5基分と言われる電力使用量をどうしていくのか。まさに問題だらけなのです。

